

岐阜農林事務所の普及活動状況

令和元年 8月25日現在

今月の重点活動

■スマート農業 ドローンによる水稲防除を実施

瑞穂市巣南町の(農)巣南営農組合では、国の「スマート農業加速化実証プロジェクト」にて、各種スマート農機を活用し、輸出用米の超低コスト生産を目指している。

8月17～18日には、事業で導入したドローンを使用して初めての水稲防除を行った。

当日は、販売窓口の全農岐阜県本部のほか、農業普及課やJAぎふも立ち会い、営農組合の女性従業員が操縦して約10haの水田に農薬散布、その実施状況を確認した。

農業普及課では、防除に先立って事前に開催された打合せ会議において、防除日程や使用薬剤のアドバイスも行っている。

ドローンによる防除は、無人ヘリに比べ農薬積載量や航続時間は劣るものの、操縦が容易で飛行時の騒音が少ないメリットもあり、スマート農業の中でも注目される技術であることから、農業普及課では作業効率や防除効果の調査を行い、普及を図っていく。
(地域支援第三係・松本政行)



【ドローンによる水稲防除】

新たなブランドづくり

■ニンジン 冬にんじんの播種始まる

農業普及課では、各務原市にんじんを対象に「新たなブランド創出支援事業」にて「にんじん共同選果施設を核にした産地拡大」の課題に取り組んでおり、収量品質向上と市場への安定出荷、加工品開発や消費宣伝活動等の支援を行う計画である。

各務原市は全国でも珍しい年二期作の産地で、8月に入り冬にんじんの播種が始まっている。

本年は、7月終わり頃から降雨がほとんどなかったため、かん水施設のあるほ場を中心に播種作業を進め、かん水により発芽を促している。

農業普及課では、JAと連携し、本年の天候を踏まえて、今後の栽培管理や病害虫防除等、冬ニンジンの安定出荷に向け指導を行う。
(地域支援第二係・水川 誠)



【にんじん播種作業】

多様な担い手づくり

■新規就農者 就農状況現地確認

8月6日～22日、管内でいちごや施設野菜、露地野菜等で就農した新規就農者に対し、関係市町・JAぎふの関係機関と農林事務所が連携して、就農後の経営状況について現地確認を行った。

就農後の経営が不安定になりがちな新規就農者を年2回定期的に訪問し状況を確認するとともに、栽培技術や今後の営農拡大などに関する課題を聞き取り、各関係機関が改善方策や今後の対応などのフォローアップを行う。

農業普及課では関係機関と連携しながら、経営安定と営農定着に向けて、今後も継続して支援していく。

(農業普及課 高橋幸蔵・三和浩一・小島康平・菊井裕人・高井哲・栗山万里奈)



【新規就農者への聞き取り】

■水田農業 J A ぎふ水田農業担い手連絡協議会研究交流会

8月5日に第14回J A ぎふ水田農業担い手連絡協議会の研究交流会が開催された。

当日は、J A ぎふ管内の水田農業の担い手約200名が参加し、水稲新品種についての講演や情報提供が行われた。

講師である(独)農研機構の梶氏から「新品種にじのきらめきについて」と題して講演があり、J A 全農岐阜から米穀情勢、J A ぎふからは水稲T A Cの研究課題の成果報告があった。

農業普及課からは、水稲の生育状況と今後の管理等の情報提供を行った。

参加した生産者からは、「今後の経営に参考になった」と好評で、農業普及課でも研究交流会で得た情報を生かして普及活動を展開する。

(農業普及課・小島康平・山田和彦・松本政行・今井啓司・宮木英有・野口裕史)



【研究交流会の様子】

■指導農業士 経営情報交換会を開催

8月8日、J A ぎふ本店にて、岐阜地域指導農業士連絡協議会による、J A ぎふ関係者との経営情報交換会を開催した。

会議では、「担い手育成について」と「スマート農業について」の2つのテーマで、お互いの立場から意見交換を行った。

担い手育成については、指導農業士から新規就農者の厳しい現状と課題が取り上げられ、関係機関と連携して取り組む必要性が再認識できた。

また、スマート農業に関しては、特にドローンの活用について関心が寄せられていた。

農業普及課では、今後も様々な機会を設けて指導農業士の活動について支援していく。

(園芸産地支援第二係・三和 浩一)



【情報交換会の様子】

売れるブランドづくり

■えだまめ えだまめ播種機の実演

8月5日、J A ぎふ島集荷場近くのほ場にて、手動移植機を利用したえだまめの直播作業の実演が行われ、20名ほどの生産者が参加した。

手動移植機を利用した直播作業は、数年前より若手生産者を中心に話題となっており、腰を屈まずに播種でき、穴なしマルチを利用することでコスト低減となるだけでなく、畝立て作業が計画的に行えると好評である。

農業普及課では若手生産者と連携し、一般部会員への普及拡大に向けて活動を進めていく。



【実演をする若手生産者】

(園芸産地支援第一係・高井 啓)

■水稲 水稲種子採種組合の現地研修会等を開催

羽島市水稲種子採種組合では、8月7、9日の2日間、現地研修会を各地区(足近、小熊、桑原)で開催した。

研修会では、各組合員の水田を巡回して生育及び幼穂の確認、今年の生育状況に応じた栽培の注意点や穂肥施用の時期等について指導を行った。また8月23日には、組合員や種子審査員及び関係機関で、出穂期前の抜き穂作業として早く出穂した稲株や異形の稲株の除去を実施した。

農業普及課では、種子審査員として9月初めに収穫期審査を行うとともに、高品質な種子生産に向け支援を行う。

(地域支援第二係・今井啓司)



【ほ場巡回で生育確認】